

特別会計

国民健康保険 特別会計

医療給付額の状況

丸川委員 被保険者一人当たりの医療給付額と、県内での状況はどうなっているか。

町民課長補佐 前年度より5万円ほど多い49万円で、県内では2番目に高い状況である。原因として、前期高齢者率が高いことや医療機関が多い山形市での受診機会が多いことが考えられる。

介護保険 特別会計

認知症初期集中支援 推進事業

横山委員 早期診断、早期対応に向けた支援だが、実績はどうか。

健康福祉課長 年間延べ65件の訪問をし、必要なサービスへのつながりなどに尽力いただいた。成果として、家族や周りの方の理解が進み、識別診断での正式な判定により、介護サービスにつながったケースも多くなった。

農業集落排水 特別会計

浄化槽整備事業費 補助金

丸川委員 支援の内容が拡充されたが実績はどうだったか。

上下水道課長 下水道普及員による推進に取り組んできて、年間目標を30件としているが実績は15件であった。今後も個別訪問を実施しながら状況を把握させていいただき、水洗化合併処理浄化槽転換に向けて取り組んでまいりたい。

公営企業会計

水道事業会計

有収率の状況

丸川委員 目標値である90%を1%割っているが、要因は何か。

上下水道課長 業務指標として重要な指標と捉えている。一番大きなものは漏水で、減らす対策として、老朽管の布設替え、漏水調査と早期修繕、流量計の更新による正確な流量の把握などに努めている。

監査意見

町民の発展と町民の福祉の向上が図られることを期待する。

実質収支は8億490万4千円の黒字となり、実質収支比率は、前年度に比べ1・5ポイント減少し、15・6%となった。経常収支比率は、経常経費の増加が上回ったことにより、3・5ポイント上昇し、90・3%となり、財政の硬直化が進行した。

また、実質公債比率は10・7%と前年度より1・4ポイント上昇した。今後ともこれらの指標に注視しながら健全な財政運営に努めていいただきたい。

主な事業では、子育て支援、教育の充実、新型コロナウイルス感染症の感染防止及び経済回復対策、行政のデジタル化の推進、定住化に向けた取り組みなど積極的に事業が展開されたことを評価する。

当年度は「第6次白鷹町総合計画」の前期基本計画の中間年度を迎えた。事業の効果や進捗状況など点検・評価を引き続き実施しながら、各事業がさらに前進するよう町民と一体となった取り組みを一層推進し、町政の発展と町民の福祉の向上が図られるようさらなる努力を望む。

代表監査委員 竹田 謙一
監査委員 今野 正明